

令和6年度
シラバス

教科・科目	家庭基礎	単位数	2
-------	------	-----	---

学年・クラス	1 学年（必修）・選択	担当者	神 蘭 岳 志
使用教科書	家庭基礎 つながる暮らし共に創る未来（教育図書）		
使用副教材	LIFE おとなガイド 家庭科資料＋グラフ式成分表（教育図書）		

目 標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１） 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

（２） 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策の構想に向けて、**情報を収集・分析**し、実践を評価・改善を行い、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

（３） 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、**郷土愛と国際性を育成**し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとし、**地域や社会に貢献する**実践的な態度を養う。

授業の内容・進め方

授業内容：A編 人の一生と家族・家庭及び福祉 B編 衣食住の生活の自立と設計 C編 持続可能な消費生活・環境
D編 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

進め方：教科書を中心に進める。また、必要に応じて実技実習やレポート小テストを実施。

考查：授業で学習した内容を中心に、知識や思考・判断を問う問題を出題する。また、技能を問う問題として、実技テストを実施する。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年2回）	◎	○	△
	小テスト・実技テスト（いずれかを単元ごとに実施）	◎	○	△
	レポート（適宜実施）	○	◎	△
	実技実習（被服・食分野）	○	◎	◎
	課題提出（適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	△	◎

- ・観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	4	A編1 生活設計1	1 自分の将来を見通そう Viewpoint	・生涯発達観の観点から各ライフステージの特徴・課題とそれに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・これからの人生で起こりうるライフイベントについて理解している。	・これからの自分の人生について想像し、まとめることができる。 ・自らの目標を想定し、そのために必要なことやリスクについて考えている。 ・生涯設計について自分の考えと人の考えを比較して意見を言うことができる。	・人生で起こりうるライフイベントについて自分の将来と照らし合わせながら主体的に考えようとしている。 ・生涯発達観の観点から各ライフステージの発達課題に関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。 ・人生の目標達成のために必要なことや考えられるリスクについて自ら調べようとしている。
	5	A編2 青年期と家族	1 これからの人生に向って 2 家族・家庭とは何だろうか？ 3 これからの家庭生活と社会 Viewpoint	・青年期の5つの自立について理解している。 ・職業の種類や意義について理解している。 ・現代の家族の特徴について、家族機能の変化や人々の意識の変化などから理解している。 ・生活に関わる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度について理解している。	・生涯発達観の観点から、青年期をどのように過ごすかについて、具体的に考え、意見をまとめたり、発表したりすることができる。 ・自分自身のアイデンティティとなる内面について見つめ直し、まとめたり発表したりすることができる。 ・具体的な事例や事象を通して、これからの家族・家庭のあり方について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ・ワーク・ライフ・バランスの観点から、職業活動のあり方について考え、まとめたり、発表したりできる。 ・自分の人生をどのように送るか、関連資料などを参考に将来を想像しながらまとめている。	・家族・家庭と社会との関わりに関心をもち、男女が協力して家庭を築くという観点から学習活動に取り組もうとしている。 ・さまざまな家族の形成性のあり方について、理解しようとしている。 ・「おとな」になることの意義について、自分の考えを持って向き合おうとしている。 ・青年期の課題や家族・家庭についての学習を自分の問題として捉えようとしている。
	6	A編3 保育	1 子どもの成長を見つめる C 編のまとめ 3 これからの子育て環境 Viewpoint ・小テスト ・レポート	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 ・子どもの生活の概要を理解している。 ・生命の尊さを認識するとともに、保育における親やおとなの役割を理解している。 ・子どもは生活の中で人と関わることを通して成長することを理解している。 ・子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・子どもの権利と福祉について理解している。	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考え、意見をまとめることができる。 ・親の役割や子どもを生き育てることの意義について考え、まとめることができる。 ・親の役割や子どもにとって望ましい保育環境について、自分の考えを入れながらまとめることができる。 ・現代の子どもを取り巻く環境の変化や課題についてまとめることができる。	・子どもに対するイメージを膨らませ、実践的・体験的な学習を通して、学習に取り組もうとしている。 ・保育における親や社会の果たす役割について考えようとしている。 ・子どもの権利と福祉について考えようとしている。 ・自分が将来、保育に関わる存在であることを理解し、自分ごととして学習に取り組んでいる。
	7	B編2 衣生活	1衣服のよ たらき 2衣服がで きるまで 3衣服の計 画と管理 ◆被服実習 4これから	・被服の機能について理解している。 ・衣服の健康と与える影響について理解している。 ・三原組織や編物の構造を理解している。 ・平面構成と立体構成の特徴を理解している。 ・ライフステージや目的に応じた衣服について理解している。 ・被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。	・衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめることができる。 ・被服の社会的機能について、新聞、書籍、インターネットなどを通して資料を収集したり、調査したりしてまとめることができる。 ・自分の衣生活について、人と比較して意見を言うことができる。 ・衣服の原料から廃棄（再利用）までの流れを調べ、まとめることができる。	・自身の衣生活の分析を通して、衣服に関心をもち、現代の衣生活に関心をもちようとしている。 ・衣服で個性を表現しようとしている。 ・衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。 ・社会的慣習に適合しながらも自己実現する着装の工夫をし、着用の目的に応じて健康的な衣服選択と着装しようとしている。 ・被服材料に応じた被服の整理や管理
	8					

		の衣生活 Viewpoint	・布の縫い方など、基礎的な技術を身に付けている。 ・資源の有効利用の観点から、購入、活用、手入れ、再利用、廃棄まで考えた被服計画の必要生について理解している。		ついて考えようとしている。 ・私たちの衣生活に関する文化や背景について理解し、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。
前期期末考査					

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
後 期	9	B編1 食生活	1「食べる」ということ 2わたちが食べているもの 3安全に食べるために 4健康に食べるために 5おいしく食べるために 6ずっと食事を楽しむために ◆調理実習 Viewpoint	・食と健康の関わりについて知り、食事の大切さを理解している。 ・各ライフステージの食生活の課題と改善策について理解している。 ・食品の表示の意味を理解している。 ・栄養素の特徴と、それを多く含む食品について理解している。 ・日常用いられる食品の栄養素的特質、調理上の性質について科学的観点から理解している。 ・食中毒や食物アレルギーについて理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 ・日常食の調理について、栄養バランスのよい献立作成、食材の選択、調理、盛り付け、マナー、配膳などについて総合的に理解している。 ・料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付け、効率よく調理することができる。 ・資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。	・自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめることができる。 ・食品の表示を理解し、購入時の判断材料とすることができる。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを活用し、自身や家族の献立を考え、作成することができる。 ・自身の食生活について、人と比較して意見を言うことができる。 ・調理実習や実験、新聞や書籍、インターネットによる資料収集などを通して、食の安全や栄養素について、考えをまとめることができる。 ・自分の住む地域や他の地域の食文化について調べたりまとめたりすることができる。 ・自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食生活の問題について深く考えている。 ・調理の安全や衛生について具体的に考えている。	・栄養素や食品の知識を生かして、自分や家族の食生活を改善しようとしている。 ・実生活で食品の表示を見て活用しようとしている。 ・自身や家族のため、さまざまな年齢・ライフスタイルの人に必要な栄養素、適した献立について興味を持って調べている。 ・食生活の多様化や食環境の変化について知り、食生活と環境について科学的に考えようとしている。 ・食の安全・衛生について関心を持ち、現代の食生活における課題について目を向けている。 ・調理実習で学んだことを家庭などでも実践し、生活の充実向上を図っている。 ・配膳や食事マナーを考えて、食事を整え、楽しく食事をしようとしている。 ・行事食・郷土食・伝統的な加工食品などの食生活の文化と背景について理解し、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。
	10					
	11	A編4 高齢期	1高齢期ってどういう時期？ 2高齢化する日本を生きて Viewpoint ◆高齢者体験学習	・高齢者の心身の特徴について理解している。 ・我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について理解している。 ・高齢者の生活を支える制度や地域社会のしくみについて理解している。 ・日常的な介護技術の基本と実践する際の心構えを身に付けている。	・高齢化がもたらす現状や高齢者を取り巻く社会について知り、その課題と改善について新聞や書籍、インターネットなどを活用して調査することができる。 ・祖父母や身近な高齢者から生きがいや社会参加、健康問題などの現状を聞き取り、まとめたことを発表することができる。 ・高齢者の自立した生活を支えるために、家族・地域・社会の役割を具体的に考察することができる。	・高齢者に対する福祉の現状を理解し、高齢期の生活を支えるしくみについて考えようとしている。 ・祖父母や身近な高齢者とふれ合う意欲と姿勢がある。 ・高齢者の自立と尊厳について、高齢者の立場に立って理解しようとしている。
		A編5 共生社会	1共生とは何か 2ノーマライゼーションとは Viewpoint ・小テスト ・レポート	・自助、互助、共助、公助について理解している。 ・共生社会の重要性を知り、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインなどの理念を理解している。 ・社会保障制度や公的年金制度について理解している。 ・地域のコミュニティ活動、ボランティア活動、NPOの活動などについて情報を集めることができる。	・共生社会とは何か？考えたりまとめたりすることができる。 ・共生社会の重要性を考え、その実現のための課題について具体的に考え、資料を収集してまとめることができる。 ・身の回りのバリアフリーやユニバーサルデザインを調べ、まとめたり発表したりすることができる。	・地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っているか？考えようとしている。 ・さまざまな立場の人や、自分と異なる価値観の人に対しても理解しようとしている。 ・共生社会実現のために、自分何ができるかを考えようとしている。 ・地域のコミュニティ活動やボランティアなどに参加する意思がある。

12	C編1 経済計画	1家計とお金の将来を考えよう Viewpoint	・家計と経済社会の関わりを理解している。 ・家計における収入と支出について理解している。 ・現金とキャッシュレスのしくみの違いについて理解している。 ・金融商品とその特徴について理解している。 ・家計の管理に関する具体的事例を収集し、整理することができる。 ・生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。	・家計管理について具体的な事例を通して、シミュレーションすることができる。 ・さまざまな金融商品のメリットとデメリットについて具体的に調べ、発表することができる。 ・将来必要となる費用や資産形成について考えたり、発表したりすることができる。	・収入と支出のバランスを考え、自分の家計簿をつけるなど工夫している。 ・家計の構成、家計における収支バランスや計画性こととまらず、将来こわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や金融商品の活用などの資金計画について関心をもっている。 ・生涯を見通した家計管理のあり方について考えようとしている。
		1何をどうやって買う？ 2かしい消費者になる Viewpoint	・消費行動における意思決定の過程とその要因について理解している。 ・三者間契約など、さまざまな契約のしくみや、未成年と成年の法律上の違いについて理解している。 ・消費者保護のしくみや、消費者問題の原因と被害に遭がないための対策について理解している。 ・消費者の責任について理解し、お金による投票行為として消費行動を捉えることができる。 ・消費者の権利と責任を理解し、資源・環境を考えた消費行動ができる。 ・契約や消費者信用、多重債務などの問題について具体的に認識し、消費者として適切な判断ができる。	・ひとつの情報を鵜呑みにするのではなく、情報を正しく活用する情報リテラシーについて考えている。 ・消費者問題について調べ、被害防止や救済について、具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ・消費者の責任について考え、今後の課題と解決方法について発表したり、意見交換したりすることができる。 ・持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、新聞、書籍、インターネット、自身や周囲の生活から具体例を収集し、まとめたり、発表したりすることができる。 ・日々の消費生活について、その背景や社会への影響について考えている。	・消費行動への意思決定には様々な要因があることを理解し、自身の消費行動として具体的に考えようとしている。 ・自分の意思で契約できる「おとな」としての権利と責任について、自分ごととして捉えようとしている。 ・消費者問題について自分ごととして捉えて対策を考えようとしている。また、他の人への啓発の意識を持っている。 ・消費者の権利と責任に関心を持ち、現代の消費生活と資源・環境や持続可能な社会についても考えようとしている。
		2C編3 環境 1環境問題を考える 2私たちにできること ・小テスト ・レポート	・生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な消費について理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	・安全で安心な生活と消費について問題を発見し、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
		3B編3 住生活 1「住まい」とは 2安全な住まい 3快適な住まい 4住まいの課題と未来の暮らし Viewpoint	・住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。 ・安全で快適な住生活を送るための知識を身に付け、環境にも配慮した住生活について理解している。 ・住む人々の各ライフステージの変化や住宅を求める事例の変化について理解している。 ・住居の平面図を読みとることができる。 ・様々な住宅様式の文化的側面を理解している。 ・地域社会とつながり、暮らすことの重要性について理解している。 ・住生活の設計に必要な情報を収集・整理し、計画をたてることができる。	・各ライフステージに応じた住居について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ・防犯、防火、耐震などの安全性が高く、日照、採光、換気、遮音などに配慮して健康的に住むことができる住居について考えることができる。 ・住んでいる地域のハザードマップなどを参考にしながら、防災への備えについてまとめたり発表したりすることができる。 ・気候や風土に応じた住居の特徴や変遷について考え、まとめたり、発表したりすることができる。 ・動線を考えて平面図を作成し、まとめたり発表したりすることができる。 ・住居のバリアフリーやユニバーサルデザインについてまとめたり発表したりすることができる。	・住まいの役割について自身の生活を振り返りながら考えようとしている。 ・住居の手入れについて考えようとしている。 ・住居の安全生や防災の知識を生かして、家庭生活において具体的な行動に移すことができる。 ・住生活の文化について関心を持っている。 ・将来の住まい方について考えようとしている。 ・地域施設との関係や、集まって住むルールなど、地域のコミュニティと共生できる住居のあり方などについて理解しようとしている。 ・住居の持続可能性について自分ごととして考えようとしている。 ・伝統的な住居や景観などについて知り、自身が将来の担い手であるという意識を持っている。

		生活設計2	1自分らしい生き方の実現 ・小テスト ・レポート	・人は多様な生き方があることを理解している。 ・一生を通して、社会の動きを見つめ、不測の事態にも柔軟に対応する必要性や広い視野をもって生活を創造していくことの重要性を理解している。	・自身のライフスキルがどの程度高まったかを考え、まとめたり、発表したりできる。 ・自分らしいライフスタイルの実現を目指して、生活設計をたてたり、発表したりできる。 ・自身の生活設計について、周りの人と比較して自分なりの価値観を見つけることができる。 ・自身の生活設計について、導入で設計した内容を調整し、工夫している。 ・自分の将来について具体的に考えている。	・これまでの学習と関連づながら、人生を見通して生活資源を活かした生活設計を考えようとしている。 ・自身の考える生活設計実現のために必要な情報を収集・整理しようとしている。
		【D編】ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・自身や地域の生活を見つめ、生活上の課題を発見し、改善のための実践活動をする意義を理解している。 ・設定したテーマを実践するために必要な知識を持っている。 ・調査・研究に必要な資料を収集・整理して具体的な計画をたてることができる。	・生活上の課題の解決を目指して、科学的に探求し、表現することができる。 ・活動を通して得た結果について、発表したり、意見交換したりすることができる。	・家庭や地域の課題を自分ごととして捉えている。 ・家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を見いだして改善しようとしている。
	後期期末考査					